

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年 8月17日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101011
法人名	医療法人 厚仁会
事業所名	グループホームあすなる
所在地	鹿児島市高麗町21番29号 (電話) 099-251-8686
自己評価作成日	平成30年6月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階に診療所を併設しており医療面での対応が充実しています。環境面では利便性のよい市街地にあり、ご家族にも面会がしやすいと喜んで頂いております。また長年診療所として地域の方々との交流があり、近隣に公園や学校もあり季節を感じながら生活していただいています。入居前には出来るだけ施設を見学していただき、少しでも生活に不安が無いように初期の段階から馴染みの関係を作れるように配慮しております。入居後は今、利用者様の出来る事は続けてもらい、出来ない所を職員がお手伝いしながらご自分の望む暮らしが継続できるように自立支援を行っています。また、利用者様が続けて来られた趣味や日課、お好きな事を続けていただきながら、楽しみや生きがいに繋がるように支援しています。催し物としては関連施設と合同での夏祭りや餅つきなど年間を通して楽しんでいただいております。年2回の家族交流会では、利用者様を中心にご家族、職員が話し合う機会を持ち、利用者様やご家族の気持ちを直に伺い、望む生活の実現に繋げていけるよう努めています。また職員の質の向上にも力を入れており、月毎の施設内研修や外部研修参加をはじめ、介護資格の修得にも力を入れており、施設全体での協力体制も整っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○理念である「入居者様といっしょに、明るく楽しく、希望に満ちた施設を目指します」は、開設当初に、職員全員で考えたものであり、理念が日々の生活に浸透し、実践できるよう、わかりやすい言葉を用い、掲示や唱和することで意識付けを図っている。

○言葉による拘束については、常に意識して接しており、また方言についても、毎日接することによる馴れ合いから、砕け過ぎた言葉を使わないよう気を配っている。ヒヤリハットについては、細かく記録に残し、その都度家族に報告するようにしている。また、ヒヤリハットが続く場合は、再発防止に向け、家族と話し合いの場を設けるなど、徹底して取り組む体制が整えられている。

○利用者や家族の意見は、日頃の会話や面会時等に聞き取るとともに、思いをうまく表現できない利用者については、日々接する中で見せる仕草や表情等から汲み取り、意見や思いの理解につなげ、毎日の生活に反映させている。また、家族に送付している「あすなる通信」は、利用者毎に作成しているため、大変わかりやすいものとなっており、家族の意見や質問につながるなど、意見交換や思いを尋ねるよい機会になっている。

○管理者と職員、また、職員間の関係も良好で、日常的に利用者への支援方法や業務内容について話し合い、日々の接遇や運営に反映させている。また、業務に支障をきたさないよう、昼休みをしっかりと取ってもらったり、休日も可能な限り取得できるよう調整している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも眼に入るようにホールに掲示してあり、カンファレンス時や全体会議で唱和し職員全員で共有して理念に沿った介護を実践している。	理念は、開設時に「明るく 楽しい」事業所にしたいと職員全員で話し合い決めたものである。リビングの目に付きやすい場所に法人理念や基本方針と併せて掲示し、カンファレンスや職員会議で唱和することで意識付けを図り、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加して地域の方々との交流もある。校区内の文化祭への出品や職場体験、サマーボランティアなど受け入れなど日常的に交流している。	地区の教育機関と、小・中・高校生によるサマーボランティアや中学生の職場体験の受け入れ、小学校の文化祭への参加等の交流を行っている。また、法人主催の夏祭りでは、ボランティアによる演芸を地域住民とともに楽しみ交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症についての相談やグループホームや関連介護施設への入居相談は出来るだけわかりやすく丁寧に応じるように心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回ご家族や民生委員、長寿安心相談センター職員の方々や施設に関係ある専門職の方に参加していただき、感染対策や災害訓練、職員のメンタルヘルス等、意見を伺いサービスの向上に生かしている。	会議には、家族や民生委員、臨床宗教師、行政職員等が参加され、事業所の取り組みや現状報告がなされるとともに、感染症や防災についての勉強会も組み込むなど有意義な会となっている。また、行政職員からヒヤリハットや事故報告書作成についての助言をもらい検討し、改善につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険の更新時や事故報告など担当窓口を訪問して情報交換を行っている、また介護相談員を受け入れ、連携を取っている。	介護保険関係の書類提出や、相談、助言をもらいに行政に出向いている。また、運営推進会議や介護相談員の受け入れにより、事業所の運営や利用者との関わり方の助言をもらい、工夫や改善すべきことをケア会議に挙げ、話し合う機会につなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止に関する指針」により「身体拘束廃止委員会」を設置し3カ月ごとに会議を行い身体拘束をしない取り組みを行っている、また研修も行い、身体拘束の弊害や禁止となる具体的な行為を学習し身体拘束をしない介護を実践している。	身体拘束廃止委員会を設置し、拘束をしないケアについて定期的に話し合っている。自由な暮らしを支援するため、日頃より見守りを徹底しており、状況に応じ接し方を工夫するなど安全に配慮している。また、日常の出来事をこまめに家族に伝えるとともに、ヒヤリハットについても、随時家族に伝え、話し合う機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で虐待の具体的な内容や発見時の対応など職員全員で学習し、共有し合い、虐待防止への意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会があるごとに日常生活自立支援制度や成年後見人について説明している。利用者の相談等は管理者を中心に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や解約時、改定時は随時、内容を声に出しながら説明し、その都度、理解されているかを確認している。また、疑問が無いかを尋ね、納得されているかを確認し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の生活の中や利用者の表情から要望をすくい取るようにしている。また家族交流会や運営推進会議等で家族や利用者の要望を伺う機会を設けたり、市相談員との意見交換も参考にしている。また出された意見や要望はカンファレンス等で話し合い改善している。	上手く表せない利用者の意見や思いを日々の様子観察や筆談を用いて聞き取るとともに、家族や入居前の病院の相談員や介護支援専門員からも聞き取り把握している。また、担当制にすることで個々の様子観察とアセスメントを十分に行うことができ、運営に反映させることにつながっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや全体会議等で話し合いを持ち、意見交換を行っている。出された意見や提案は皆で話し合いより良い施設になるように取り組んでいる。また相談ごととは個別に聴き適切な助言を行っている。	カンファレンスや会議で職員の意見を聞くほか、随時、個別に意見を聴いている。働きやすい環境になるよう、希望に副った休日取得できるよう調整したり、休憩時間は、少しでも身体を休められるよう、スタッフルームで休むように勧めるなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が有給休暇を気兼ねなく取得できるように労働環境を整備し、スキルアップにも理解を示し、各自の向上心を大切に思い助言している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、職員研修を行い介護の質を高めるように努めている。外部の研修にも参加する機会作り、参加した職員が中心になり次の研修へつなげている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連グループの管理者と事例検討を行うなどして質の向上に役立てている。また、職員同士の交流を図り、介護の質の向上に努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に施設を見学していただき、直接ご本人にお会いして情報収集を行いながら、利用者の不安や困りごとを聞き取り要望に応え、安心して入居できるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の希望や困りごと不安などをお聴きし、疑問点には丁寧に応え、信頼関係を築けるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、早急な対応が必要かどうか、利用者やご家族の思いや状況を確認し、その方にとって必要なサービスを柔軟に検討し、必要があれば他のサービス等の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者は共に生活する者同士であり、人生の先輩であることを理解しており、利用者の出来る事、出来ない事を見極め、お互いが支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会の機会を作ってください、家族にしかできない情緒面でのケアをお願いしており、利用者が安心して生活できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人が自由に面会が出来て、馴染みの美容室や食堂、お墓参りなど、これまでの関係が途切れることなく継続できるように支援している。	これまでの人間関係や馴染みの場所を詳しく把握し、家族と協力し合い外出を支援している。また、日常的に電話や手紙の取り次ぎに対応し、近所への買い物については、職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者同士が交流する中で、良好な関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談に応じる事を伝えており、新しい入居先へ状態を見に行ったり、電話をもらったりして、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示できる方は利用者や家族から直接、思いや希望をお聞きしている。困難な方は日々のかかわりの中で思いや希望を汲み取り職員間で共有している。	気付いたことを自由に書き込める連絡ノートを用い、申し送り時に情報を共有している。意思疎通の難しい場合は日々の言動やアセスメント情報も参考にしながら、思いを汲み取り支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集し、職員間で共有している。入居後も折にふれ、本人や家族から今までの生活状況やサービスの利用等を聴き把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムや心身状態の把握に努め、受け身ではなく生活している実感を持てるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で利用者、家族、主治医、職員が意見を出し合い、利用者がよりよく暮らすための介護方針を話し合い、介護計画が現状に合ったものであるかを期間を決めて検討している。	担当職員がカンファレンスでアセスメントを取り、職員会議で共有し、介護支援専門員と協議しモニタリングを行い、介護計画につなげている。また、受診時に把握した内容も組み込み、医療と介護のバランスの取れた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々の気づきを業務日誌、ケース記録、申し送りノート等に記載し、その内容をケアカンファレンスで話し合い、結果を職員全員で共有し、介護の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の介助や買い物など利用者や家族の希望や状況に臨機応変に対応し、利用者や家族の満足が得られるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して生活できるように地域の民生委員や町内会長さん、警察、消防署に協力をお願いしている。荒田小地区の文化祭に作品を出品し地域と交流できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医や診察内容の希望を伺い、利用者や家族の意向に沿うように努めている。また初診時は施設から職員が同行して適切な治療が受けられるように主治医に情報提供を行っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医を、初診時は管理者等が同行して主治医と面談するようにしており、以降はこまめに情報提供することで状態の把握に努めている。把握した内容は、連絡ノートや業務日誌に記録し、職員間で情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1Fに診療所があり、血圧や体温の異変時には、すぐに連絡できる体制をとっている。また、夜間や緊急時にも担当看護師や主治医に連絡ができ、相談や看護が受けられるようになっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、看護サマリーや薬剤情報を提供して医療がスムーズに行われるように努めている。また、入院先の連携室と連絡を取り合い、早い段階から退院に向けてかかわるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に係る対応の指針を定めており、利用者の状態変化に伴い随時、家族と話し合いを持っている。施設が対応しうる介護の内容についても説明し、同意を得て主治医と連携を図り看取りも行っている。	契約時に重度化や終末期への対応指針を説明し、状態の変化に伴い、「看取りについての事前確認書」「対応に係る具体的な内容」等、説明と同意を繰り返し行うことで、本人、家族の変化する思いに対応している。また、医療機関との連携が十分に図れているため、これまでに看取りの経験は多くある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や応急処置の研修を行っている。研修には看護師も同席し、より実践的な対応が出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、風水害のマニュアルを作成し、火災は年2回、地域の町内会長さんや民生委員に参加してもらい地域の方々にも協力をもらえるように取り組んでいる。また地震、風水害の訓練も行っている。	年2回夜間想定を含む災害訓練を地域住民の参加も得ながら実施している。また、避難経路の確認や夜勤時の災害シュミレーションの確認を徹底させている。備蓄は、水や米、レトルト食品等を約3日分準備し、カセットコンロやラジオ、懐中電灯等の備品も取り出しやすい場所に準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時など何気ない誘導を心がけプライバシーの確保や個人の人格を尊重するように配慮している。利用者は共に生活する家族であり、人生の先輩であることを忘れず、常に尊厳の気持ちを持ち、プライドを傷つけないような声かけを行っている	人権やプライバシーに関する研修会を実施し、言葉遣いや入浴、排泄時の支援方法について確認している。トイレ誘導の際の声のかけ方や、排泄状況を確認する際は、他者にわからないよう、さり気なく尋ねるようにしてる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望に理解を示し、何事も利用者の気持ちを最優先し、利用者が自分で決めて納得のいく生活が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間はある程度決められているが、それ以外は利用者のペースで生活していただいている。また行事参加やレクレーション等は利用者の意向を尊重しながら参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日、着る服を自分で選んでもらい、好きな服装で過ごしてもらっている。化粧品も使いなれた物を使い、身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握し、旬の素材を使い行事食などメニューに季節感が出るように配慮している。献立を一緒に決めたり、下ごしらえや後片付けを手伝ってもらっている。職員も同じテーブルを囲み食事を一緒に楽しむようにしている。	利用者の意見も参考にしながらメニューを決め、調理の下ごしらえや配膳下膳を利用者と職員が共に行い、同じ食事を会話を楽しみながら摂っている。また、季節感を楽しめるよう、餅つきやおせち料理、十五夜の団子作り等趣向を凝らすなど、食べる楽しみを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は利用者ごとに記録し、定期的な体重測定や毎日の排泄状態を見ながら健康状態を把握している。水分摂取が困難な場合にはゼリーにするなど工夫して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い職員が傍で見守り、綺麗になったかを一人ひとり確認している。一人で出来ない方は職員が義歯と口の中を綺麗に磨いている。義歯は職員が預かり毎日、洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表等で利用者の排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導や声かけでトイレでの排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表を参考にしながら、随時トイレ誘導を行っている。なるべくリハビリパンツを使わずに済むよう、夜間もトイレ誘導を行い、便座に腰掛けてもらうことで排泄を促している。トイレでの排泄を基本としているため、現在ポータブルトイレを使用される利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便や水分摂取量のチェックを行い、定期的な排泄があるように努めている。また、日頃から繊維質の多い食材や乳製品などを多く摂るように工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の曜日は決めてあるが、利用者の希望で臨機応変に対応している。入浴方法も見守りだけの方や全介助や部分介助が必要な方など入居者の状態に応じた支援を行っている。	入浴日を決めているが、シャワー浴や足浴も含め、希望があればいつでも入浴は可能である。2階に特殊浴槽を備えているため、重度化に伴い入浴が困難になった場合でも浴槽につかることができ、また職員の介護負担軽減にもつなげられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて、ご自分のペースで横になって頂いている。昼間は出来るだけ活動してもらい、夜は良眠していただくように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで薬の内容や用量、用法を確認できるようにしている。薬の処方の変更は申し送りノートや業務日誌に記録し職員が情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な事、好きな事を本人や家族から情報収集しており、手伝い等、施設での役割を持ってもらっている。また、趣味やお好きな事をレクリエーションで取り上げ、一人ひとりの生活に楽しみが持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望に応じて散歩や買い物等、出かけている。また、家族との外出やお墓参り、馴染みの美容室への外出などの機会が持てるように支援している	季節の花見や校区の文化祭、お寺詣りを年間行事計画に組み込み出かけている。加齢による体力低下により全員での外出が難しくなっているため、個別の外出を家族と協力しながら支援している。また、散歩や近くにあるコンビニエンスストアまで歩いて出かけるなど、日常的に外出する機会を作り個別に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族の希望により本人でお金を管理していただき、買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っている利用者は自由に電話が出来る状態である。また、本人が希望すれば、施設から電話を取り次いだりしている。手紙も書かれた時は投函するなどの支援もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体を清潔に保ち、カーテン等も落ち着いた色を選び、過ごしやすい空間を作れるように配慮している。また室内に時節の飾り物を置き、季節感を感じてもらえるように工夫している。	リビングのテーブルやソファは、利用者の過ごしやすい動線に配慮されており、トイレは遠くからでも場所がわかるよう、目に付きやすい案内としている。また、リビングには仏壇が置かれており、朝夕に手を合わせる利用者もおられるなど癒しになっている。掃除や空調管理についても、日頃より気を配るなど、過ごしやすい環境に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、そこで利用者が一人になったり、気の合う者同士で過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いた家具などを持ってきていただくようお願いしており、自由に利用者が好みの物で部屋を飾られ、居心地の良い空間を作っている。	電動ベッド、エアコン、洗面台が備え付けられているため、手洗いやうがいなども個別に行うことができる。また、自宅から馴染みの品を持ち込むとともに、個々の動線に合わせた自由な部屋作りがなされるなど、過ごしやすい環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室などの手すりを付けており安全に移動できるように配慮されている。施設内は段差がなくバリアフリーになっており車イスの方もスムーズに移動できるようになっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない